

一人暮らしを続けたい視覚障がいのある高齢者からの相談

■人権キーワード

高齢者、障がい者

■相談の主訴

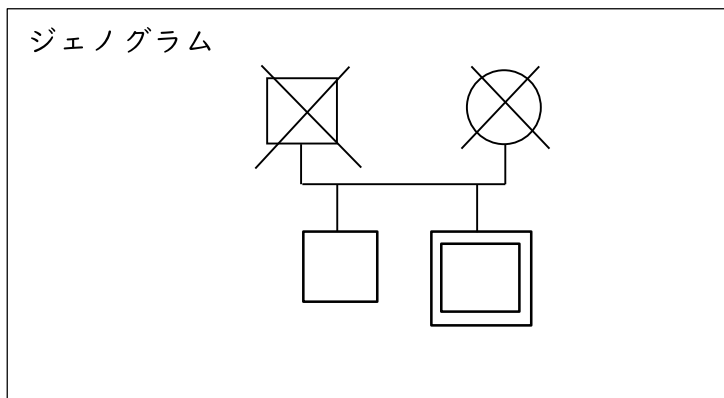
視覚障がいが進行し、一人での外出がしんどくなる中でも自分の家で一人暮らしを続けていきたい。

■相談者

- ・ 相談者は70歳代の男性でずっと独身生活をしている。
- ・ 年金とともに生活保護を受給しながらの生活。
- ・ 以前働いていた職場の方がお金の管理の支援をしている。
- ・ 現在は週4回デイサービスを利用。月に1回ケアマネージャーが家に来訪している。
- ・ 視覚障がいが悪化し一人での外出が難しくなってきている。また認知機能の低下も著しい状態。

■家族状況

- ・ 遠方に相談者の兄が居住していて、兄の娘が時々相談者の様子を見にきている。



■相談に至った経緯

- ・ 人権文化センターの近くの店に来られたところを相談員が声をかけた。本人より目が見えなくなってきたことを聞き取った。

■相談内容・相談者の状況等

- ・ 糖尿病からくる緑内障により目が見えにくくなり、人権文化センターから相談員が病院などに付き添いに行くようになる。
- ・ 人権文化センターには友人と一緒に来所され、一緒に過ごしたり食事をとったりしている。

- ・ 買い物が好きで、たくさん購入される。また、物を捨てられないので家の中が物であふれた状態になっている。
- ・ 飼い犬と一緒に散歩することが生きがいになっていてともに暮らし続けることを希望している。相談者は飼い犬の糞尿の処理もできなくなっているため、匂いなどがきつくなり人が入りにくい住環境になっている。

■対応

- ・ 人権文化センターの相談員とケースワーカー、地域包括支援センターが相談者と一緒に話し合いをして、相談者の希望を聴き取り、その後ケース会議を実施した。その結果できる限り本人の希望に沿った形で在宅生活を維持していこうということになった。
- ・ 介護保険制度を未利用の方だったので、介護保険サービスを使う必要性を相談者に理解してもらい、介護認定や障害認定を取るための支援を行った。その結果要介護3の認定と障害認定を取得することができた。
- ・ よく食べられる方だが、糖尿病の悪化につながる恐れがあるため病状を考えながら食べ過ぎないようにと助言する。
- ・ 相談者は認知機能が低下しているため薬を飲んでいるのか理解していない様子なので服薬管理をしている。

■評価および今後の課題

- ・ 本人は友人や支援者とのつながりを持っているため、体調を大きく崩すことなく過ごすことができている。
- ・ 相談者の話をしっかり聞き希望を聞くことを大切にしているが、病状の悪化もあって本人の希望に沿って進めていくことの困難さも感じている。
- ・ 相談者は身寄りがなく視覚障がいが悪化していることもあり、今後は成年後見も検討したい。
- ・ 本人の希望を尊重し、現在は見守り体制を整備し、福祉サービス利用を行うことで生活を支えていく。相談者が自力での生活が難しくなっていけば、今後は施設利用についても検討すべきである。
- ・ 今後の生活について、様々な選択肢を示し、本人の理解のうえ意思決定してもらう関りが課題になってくる。

■連携が想定される資源・利用が想定されるサービス等

- ・ 市町村の福祉事務所、障がい福祉担当部署
- ・ 市町村の介護保険担当部署
- ・ 市町村の人権担当部署
- ・ 市町村人権協会・人権地域協議会
- ・ 社会福祉協議会

- ・ 介護支援専門員（ケアマネジャー）
- ・ 特別養護老人ホーム等の各種老人ホーム、デイサービス、グループホーム、居宅介護支援事業所等の介護サービス事業所
- ・ 成年後見人
- ・ 包括的相談支援窓口（重層的支援体制整備事業）
- ・ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）
- ・ 隣保館、人権文化センター
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 友人（ボランティア）